

熊本 菊池川流域の装飾古墳群・鹿児島 上野原縄文遺跡・宮崎 西都原古墳群



西都原古墳群 鬼の窟で 2004.10.7.

10月6、7日快晴 1泊2日の強行スケジュールで九州の縄文・古代遺跡を訪ねる旅に縄文・古代史の仲間約25名で出かけました。

発端は北九州の装飾古墳。北九州に古墳時代 高松塚古墳に先駆け、中国文化の影響(詳細な人物像 朱雀・亀・虎・蛇など高松塚やキトラ古墳に代表され、漆喰での上に描かれる)を受けない幾何学文様などの鮮やかな装飾壁画が岩壁に直接描かれた古墳群が現れそして忽然と消えた。

その代表が福岡県遠賀川中流の「王塚装飾古墳」や熊本県菊池川中流の「チブサン装飾古墳」。



熊本県菊池 チブサン古墳 内部壁画

教えてもらった時には、赤を貴重とした鮮やかな彩色と幾何学文様の不思議な魅力。

そして、文字がない前史とは言いながら、畿内にはすでに大和政権が立ち 色々なことが語られる時代に、まったくその古墳の主がわからないミステリーにビックリしました。この装飾古墳は北九州・茨城などきわめて限られた場所に集中的に存在。

畿内では河内の高井田古墳群の中にも存在。ちょうど大和政権が誕生した5世紀頃から現れ、大和政権が安定する7世紀には消えてしまう。

ちょうど三輪山の製鉄遺跡や生駒山南麓の大泉製鉄遺跡・高井田古墳群に出かけた直後のこと。

その出現地が北九州の川沿い・茨城県そして畿内高井田遺跡を考えるとまったくのあてずっぽうではあるが、『この装飾古墳は大陸・朝鮮半島からやってきた『古代製鉄「産鉄の民」』と関係が深いのではないかと』の強い思いを持っている。「是非 確かめねば・・・」である。

同じ九州に行くのであれば、5000年前の青森の山内丸山遺跡よりも古い9500年前縄文草創期に縄文の集落があり、高い文化を持っていた鹿児島県国分の「上野原縄文遺跡」にも行きたい。

帰りに 宮崎県西都原 日本のルーツを語る天孫族記紀神話の古墳時代の西都原古墳にも・・・と。



熊本県菊池 チブサン古墳



鹿児島県国分上野原縄文遺跡

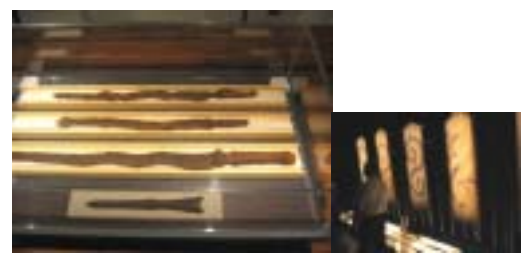


宮崎県西都 西都原古墳群

この3箇所一気に1泊2日でツアーしようということで、仲間が必死にツアー計画を作ってくれて 総勢 23名のツアー。

すごい強行軍でしたが、素晴らしい旅でした。

九州の古代遺跡 聞いたり読んだりはしていましたが、実際に意識して見学に出かけるのは初めて。「見ると聞くとは大違い」の知識の希薄さを痛感しながら新しい発見に感激の素晴らしい旅でした。



熊本県菊池 チブサン古墳
チブサン古墳内部壁画

鹿児島県国分上野原縄文遺跡
出土した素晴らしい縄文土器

宮崎県西都 西都原古墳群
隼人の根拠地と周辺から出土した蛇行剣

九州の縄文・古代遺跡を訪ねて 2004.10.6.& 7.

1. 熊本県 菊池 装飾古墳群 チブサン遺跡
2. 鹿児島県 上野原縄文遺跡
3. 宮崎県 西都古墳群

九州の縄文・古代遺跡を訪ねて

1. 熊本県 菊池川流域の装飾古墳群 2004.10.6.

チブサン遺跡・鍋田横穴古墳群・熊本県装飾古墳館



古墳時代の装飾古墳文化が花咲いた菊池川流域 山鹿市近辺 2004.10.6.

10月6日 早朝 伊丹から 阿蘇の山並みを眺めながら熊本空港へ
熊本空港からチャーターしたバスで阿蘇の山並を背後に行手に県北の山々が連なる菊地市を通過して 山鹿市へ約1時間のバスツアー。

この古墳時代の装飾古墳群が集積する菊池川流域 山鹿・鹿央の地域は 福岡・大分と熊本県の県境の山岳地に沿って、菊池川が流れ下り、流域には縄文・弥生時代からの遺跡が点々と連なり、その最下流部では日本最古の鉄斧が出土した地。

古墳時代になると前方後円墳を中心とした古墳群が発展し、6～7世紀には菊池川流域に日本有数の装飾古墳文化が栄えた地である。

その中心地が頭の上に燈籠をいただき、静かに踊る優美な山鹿燈籠踊りで有名な山鹿市である。

町の中を西から東へ菊池川が流れくぐる温泉町である。

この町の西端で北の山岳部から流れ下る岩野川・吉田川が合流する合流点の北西岸の高台 鍋田台に山鹿市立博物館やチブサン古墳・鍋田横穴古墳群などがある。

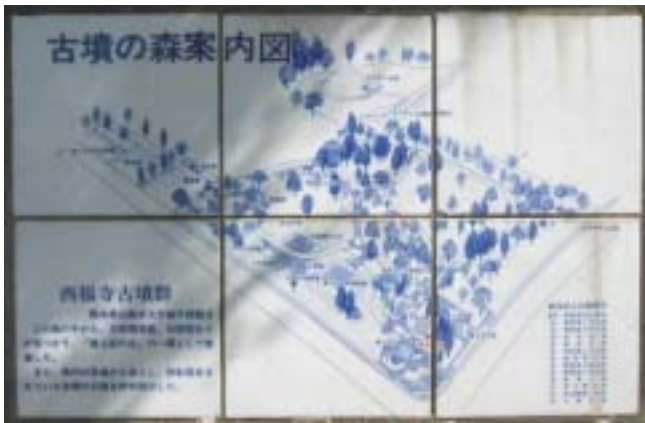
また、この菊池川を挟んで南岸 鹿央町の丘陵地には岩原横穴古墳群や熊本県立装飾古墳館がある。

これら 古墳時代装飾古墳群文化の中心地は 今「肥後 古代の森」として整備されている。

このあたりから菊池川が蛇行しながら南に流れをかえ、有名な象嵌文字の剣が出土した江田船山古墳などのある菊水町を経て 玉名市で有明海にそそぐ。

今日は この菊池川流域の装飾古墳群ならびに山鹿市立博物館・熊本県立装飾古墳館を訪れ、その後、九州自動車道を鹿児島まで行く強行軍。

1.1. 鍋田台 オブサン古墳・チブサン古墳へ



山鹿市立博物館と古墳の森案内板



肥後の森 古墳の森 鍋田台頂上部 西福寺古墳群 2004.10.6.

山鹿燈籠が街灯として立ち並ぶ山鹿市内を抜け、菊池川の支流岩野川を渡ったところに鍋田横穴古墳群の標識がみえ、ここから川岸に沿う丘陵地の細い道を何度かバスはターンしながら丘の上に出る。

樹木に囲まれた公園になっていて、丘陵地の幾つもの丘に小さい幾つものこぶがが並んでいる。

西福寺古墳群で良く整備された公園になっている。

丘の中腹の山鹿市立博物館で予備知識をいれて、ボランティア ガイドの案内でチブサン古墳を見学に丘を登ってゆく。 丘の頂上部には方形周溝墓の西福寺古墳群が広がり幾つもの古墳が見える。天気が良いので、樹木の中にいると本当に気持ちが良い。

この頂上のすぐ下の丘にオブサン古墳。そして、そこを少し南に行くとチブサン古墳へと続く。

オブサン古墳

丘を一段下ると饅頭状の古墳の入口部に長く手を伸ばした突堤の見える古墳がある。

これが、全国でも極めて珍しい突堤付き円墳で古くから「安産の神様」として信仰されてきた「オブサン古墳」である。



オブサン古墳 2004.10.9.

直径2.2m高さ 5m の古墳時代後期（6世紀後半）の円墳で、内部に巨石積の横穴式の複式石室が築かれていて、奥室には石屋形や一部には装飾文様が描かれているという。

入口から内部にはいるとすごい湿気。ガラス窓で外部と遮断 ガラス越しにみるが、内部の装飾壁画は良くわからない。

チブサン古墳

このオブサン古墳から林を抜けて少し歩くと双子の丘に見える古墳が見えてくる。

これが「チブサン古墳」である。



チブサン遺跡 2004.10.6.

チブサン遺跡は全長4.5m（後円部径2.4m、前方部幅1.5.7m）の前方後円墳。

古墳時代6世紀半ば頃に造られた代表的な装飾古墳。

潜道をとあって、後円部に全長6mの複式石室(前室1.9m 奥室3.6m 四方の正方形)を持ち、側壁はドーム状

に割石でくみ上げられ、天井は一枚の天井石でふさがれている。奥室の奥壁に沿って石屋形が築かれ、この部分に華麗な三角や菱形、同心円などの幾何学文様などが描かれ、見方によって鳥にも原始の仮面にも連想できる。

また、乳房にも見えることから「チブサン」という名がつき、「乳の神様」としての信仰を集めました。この名前の由来は、異説があって横穴式石室のルーツが朝鮮半島南部にあることから、韓国語のチプ(家)とサン(墓の尊称)の組み合わせが変化して、チブサンになったと推理する人もいる。

また、死者の枕元の右側の壁には、白い人物像が描かれている。

悪霊の前に立ちふさがる番兵といわれ、死者を護っている。

頭上の白い八個の円文は冥界を照らす星。また、これらの赤青白黒黄を使った絵は呪術的意図をもつ「除魔辟邪」と呼ばれているという。



チブサン遺跡内部 石屋形壁面の彩色壁画 中央に同心円など幾何学模様 右壁に白い人物
(チブサン遺跡 内部石屋形レプリカより)

そんな予備知識を頭に入れて、狭い潜道の入口から中へ。

石室の中へは 2重の扉となっていて、しかも非常に狭い。斜めになっている長い階段のところで順番を待つ



チブサン遺跡 と その内部 石屋形壁面の彩色壁画 中央に同心円など幾何学模様

むんむんした内部 しゃがんでも頭を打ちそうな狭い石室の入口からガラス越しに内部を見る。

正面にくっきりと同心円模様が赤・黒・白の彩色で鮮やかに描かれ、右壁の人物もかすかにわかる。

こんな図案が6世紀に。。。。そして、赤。おそらくベンガラで描かれたのだろう。

高松塚古墳は漆喰の壁に描かれているが、チブサン遺跡などの装飾古墳では直接壁面に描かれているので剥がれ落ちずに残っている。

また、二つの丸い同心円 「チブサン古墳」名前の由来と言われるが、ぼっと暗闇の中に浮かび上がっているのを見ると

「くちばしのある妖怪」かなにかの目の玉のようにも思える。

どんな人たちがここに葬られたのだろうか。。。。。

薄明かりに照らされた壁画を見ながら、色々思いをめぐらす。

6世紀半ばといえば、大和では三輪政権が確立し、仏教伝来(538年)そして、聖徳太子の時代前夜である。



ガラス越しに見たチブサン遺跡 石屋形内部の壁画

当初 この石屋形は石棺のごとく こちら側にも石の壁があって、密封されていたと思っていました。こちらから見えるように取り外していると思っていましたが、そうではなく、初めからこちら側はオープン。石棺ではなく石屋形の意味やつと理解。

石室の中のベッド これが石屋形でこの中に直接死者が寝かされて葬られる。独特の墓の形式である。



チブサン古墳脇にある家屋形ならびに石人像のレプリカ 2004.10.6.

熊本県は古墳の内部に彩色や彫刻で文様や図柄が描かれた装飾古墳の数で全国一。その数はけた違いで2位の福岡県が約60基なのに対し、熊本県には187基もある。そして、これらの装飾古墳はなぜか菊池川の流域に集中し、122基が確認されている。

さらに、122群・3000基を越える横穴墓群がひしめきあって、菊池川流域に日本の装飾古墳の約4割が分布している。

「装飾古墳がなぜ 菊地川流域や福岡遠賀川流域そして茨城県などに偏在して存在するのか。。。」
 この謎は今も解けていない。



熊本の装飾古墳説明のモニュメント 肥後古代の森入口で

鍋田台の東側がこの「肥後古代森林の森」の入口になっていて、台地の斜面に大きな装飾古墳説明の陶板がモニュメントとしてはめ込まれていた。山鹿市立博物館のところまで戻って昼弁当。

もう一度博物館に入ると共に、ボランティアガイドの人がふっと漏らした「菊地川は砂鉄の産地」の言葉について教えてもらう。

「菊地川では 今でも川砂鉄が取れる。 県立装飾古墳館では砂鉄を集めて、製鉄実験もしている」と教えてもらう。

「やっぱり、この流域は古代製鉄の先進地ではないか。。。。」

装飾古墳はこの産鉄の民 産鉄の渡来人がもたらした文化でないか。。。。」

の意を強くするが、古代鉄との関係は良くわからず、装飾古墳館で聞くことにする。

山鹿市立博物館にはこの地でしか見つからない石包丁型鉄器が展示され、まだ他の地域が石包丁を使っていた時代に既に鉄が使われていたことを示していた。

この菊地川流域は鉄の先進地である。

また、この鍋田台地のもう少し南側にある特異な岩山が林立する不動岩近傍で砂鉄が取れることまた、同じ山中で古代の赤顔料 ベンガラが採取されたことなどを教えてもらう。



そんな事を教えてもらって、鍋田の丘を東側に廻ると、菊地川の流に沿った家並みの向こうに、不動岩の特異な姿が見えた。後で調べるとこの不動岩変斑レイ岩で菊地川流域は太古の阿蘇山噴火によるマグマが変質した地質で鉄鉱物を多く含んでいることもわかった。

山鹿市立博物館に展示より 石包丁型鉄器



チブサン古墳 鍋田台から見た不動岩 2004.10.6.

1.2. 鍋田横穴古墳群へ



昼食後 鍋田台を菊地川の支流岩野川の岸までおりる。

この川に沿って鍋田台の崖が続き、その崖の岩をくりぬいて幾くつもの横穴古墳があり、その数 55 基。そのうち 10 基に装飾壁画がある。鍋田横穴古墳群である。

最も多彩な壁画を持つのが、ちょうど鍋田台から下りてきたすぐ横 27 号墓の横穴で、弓をもった人物や楯（たて）などが彫刻されている。





この鍋田横穴古墳群で一番有名なのが、第 27 号墓。入口右側にも同じ線刻画があった。今は崩落してないが、江戸時代の残されたスケッチでそれがわかる。

ちょっと見た目には汚れていて判読しにくいですが、横穴のすぐ脇に弓を持つ人物　そして左へ順に矛先・鞆・鞆・鎌・矢をつがえた弓・盾そしてそれらの下に馬が描かれ、侵入者から葬られた人を守る人を描いている。鍋田横穴古墳群では　大きな装飾古墳はこれだけであるが、岩野川に沿う崖に多数の横穴があり、川に沿った遊歩道から見学できる。　墓を見学しているわけであるが、全く暗さはない。

すぐ南には清流が流れ、その向こうに東の不動岩などの山々を後背として広々とした平野が西の有明海までひろがる奥まった地。ボランティアガイドの人はこの地は昔菊地川を中心とした 3 河川の合流点で、氾濫の多い肥沃な土地だったという。

鍋田台ほか菊地川に沿う高台・山裾が昔から早く開けた所以であろう。



鍋田横穴古墳群 2004.10.6.

1.3. 熊本県立装飾古墳館と岩原横穴古墳群



鹿央町 熊本県立装飾古墳館とそこからみた岩原古墳群

鍋田台の「肥後古代の森」から 東西に流れる菊地川を反対南側の鹿央町の高台にも 5 世紀の古墳群・横穴古墳群がある。岩原古墳群・岩原横穴古墳群で、ここも「肥後古代の森・鹿央地区」として整備されている。その中心施設として熊本県立装飾古墳館があり、熊本県の装飾古墳のレプリカ再現展示をはじめ、屋外には岩原古墳群とともに横山古墳など県内の古墳を移設復元して展示している。



鹿央町 岩原古墳群と移設復元された横山古墳 2004.10.6.

鍋田台で時間をとったため、この台地をゆっくり歩けなかったが、全長 107m の前方後円墳双子塚古墳を中心に 12 基の円墳があり、高台の北斜面の崖には 100 基を超える岩原横穴古墳群があつた。



岩原横穴古墳群 2004.10.6.

菊地川流域を全部あるいたわけではないが、この山鹿・鹿央を中心とした菊地川流域は古墳時代の古墳の宝庫。日本誕生の先進地。そして、山鹿市の片保田東原弥生遺跡からは他の地域にはない石包丁型の鉄器が出

土。西へ菊池川を下ると象嵌文字のある鉄剣が出土した菊水町江田船山古墳。

また、川砂鉄の宝庫 菊池川が海岸で形成するデルタに程近い荒尾市の小岱山には平安時代から鎌倉時代にかけてのたたら製鉄群があるという。

「この菊池川流域は産鉄の人たちが分け入った古代鉄の先進地」の思いが益々強くなる。

そして、装飾古墳を作った人たちはそんな鉄の技術を持って この地にやってきた「渡来の人たち」ではないだろうか。。 鉄が演じた日本誕生へのドラマがここでもあったのだろう。

これが事実なら、もう一つの九州装飾古墳の集積地 遠賀川流域も鉄の痕跡があるだろう。

昔訪ねた筑豊のたたら遺跡が頭にある。

最も美しい装飾古墳といわれる北九州 飯塚の「王塚装飾古墳」にもすぐ出かけた。

確証はないが、描いていたイメージが、益々強くなってご機嫌で、この地を後にする。

後日 10月15日 北九州 飯塚の近く桂川町の王塚装飾古墳を訪ねました。その素晴らしさもすごい。

これらについては 別途 「装飾古墳群と古代鉄の先進地」とでもしてまとめます。

九州 縄文・古代遺跡を訪ねて

2. 上野原縄文遺跡を訪ねて



鹿児島県 国分 上野原縄文遺跡 2004.10.7.

正面右雲の中は霧島連峰

10.7. 朝 6時10分 桜島からの日の出。

今の鹿児島を象徴しているかのようである。

昨日 夕方鹿児島市にバスで入って、鹿児島市内で泊まるのは何十年ぶりかである。

東北の街々を見てきた私には人の多さと交通渋滞にビックリ。

京セラなど新産業が根付いた街の活気かも知れない。

南の端の町とは思えぬ活気にビックリした。

今日は 国分まで車で行って 今から 9500年前の縄文早期 日本で一番古い集落が発見され、三内丸山遺跡とともに従来の縄文時代観を覆した上野原遺跡を見学。再度国分から車で宮崎へ



鹿児島湾桜島からの日の出

2004.10.7.朝

記紀に記された古代神話の古墳群西都原古墳群を見て宮崎から大阪へのハードスケジュール。

昔の西鹿児島駅 町並みとともに新しくなった鹿児島中央駅から桜島を眺めながら、1時間弱で国分。

国分駅から南東に鹿児島湾を望む標高 250m 上野原の台地が広がる。

タクシーで約 15分ほど京セラの工場の横を通り抜け、正面に見える丘陵地に行くと林の中に白銀の円筒形の建物「上野原 縄文の森」展示館。

数年前 霧島 高千穂の峯から眺めた上野原遺跡にとうとうやって来た。

山内丸山縄文発信の会の「縄文ファイル」で時々記事を見ていて、是非行きたかったところである。



JR 国分駅



上野原台地



上野原縄文の森展示



上野原遺跡が保存公開されている上野原 縄文の森 2004.10.7

広大な上野原台地上の上野原縄文遺跡は今 広さ約 36ha の広い「上野原 縄文の森」として整備されている。中心施設として 上野原縄文遺跡の概要 出土品などを展示解説する「上野原縄文の森展示館」。発見当時の遺跡がそのまま観察できる「遺跡保存館」や「地層監察館」そして当時の復元住宅エリアなどが広葉樹林の森の中にある。

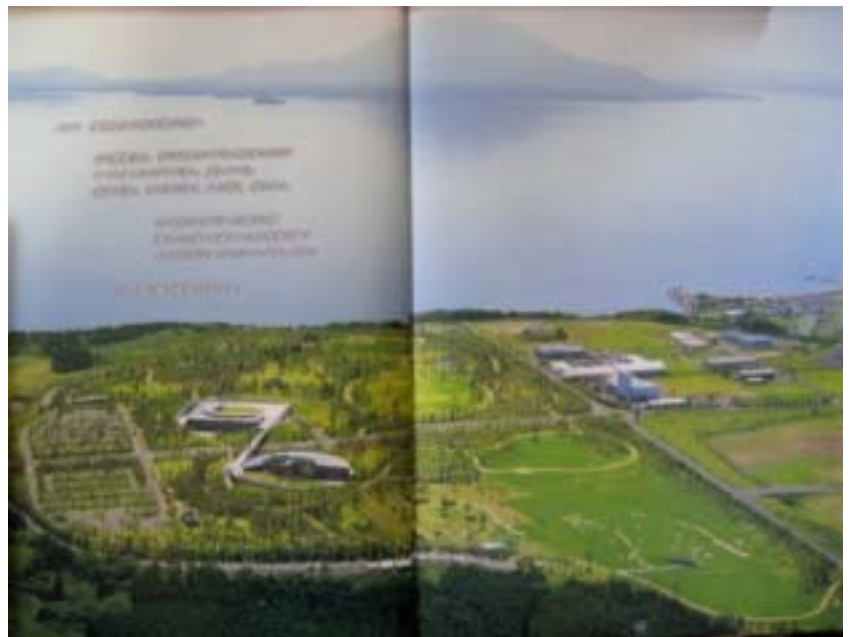
素晴らしい森の中に遺跡は保存公開されている。

約 5000 年前の縄文の大集落 青森山内丸山縄文遺跡が発見され 縄文時代に既に狩猟だけでなく定住生活と高度な文化を持っていることが判ってビックリ。

どちらかというと縄文文化は東日本が中心とのイメージしていた中で、1997 年 山内丸山遺跡よりもさらに古い 9500 年も前 縄文早期に南の端の鹿児島でそれを覆す縄文の大集落が発見された。

日本人のルーツ 南海の海を越えて一部の縄文人が 黒潮に乗ってやってきて、いち早く定住の暮らしをはじめた。大発見である。

そして、この上野原の集落はその後、約 6300 年前の鬼界カルデラの大爆発とともに九州一円の他の集落とともに一度 埋もれて消えてしまう。





「日本人はるかな旅」巨大噴火に消えた黒潮の民

6300 年前大爆発した 鬼界カルデラの一部

『NHK 日本人はるかな旅 巨大噴火に消えた黒潮の民』によると地球寒冷化によって日本列島が北で地続きになったときにもずっと海が広がり、地続きにならなかった。

この日本列島の南に広がる広大な海を越えて海から日本列島にやってきた人たちがいる。

この上野原に住んだ日本人の祖先は黒潮に乗って南海の海を渡ってきた人たち。

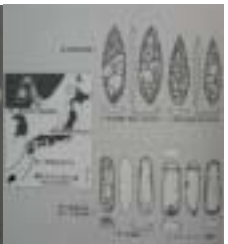
約 12000 年前から南九州に南の海の技術・文化を持ち込んだという。

南九州で広がった東日本とは少し異なる縄文文化

南の海からやってきたことを証する

1. 貝文土器とその中に混じる平底方形の土器

2. 磨製石斧



3. 舟製作に使ったと思われる磨製石ノミ型石斧



上野原縄文遺跡は 1997 年に工業団地造成中に発見された縄文時代から中世までの複合遺跡。特に最古の定住集落跡が出土した 9800 年前の層と上野原縄文集落が最盛期であることを示す数々の遺物が出た 7500 年前の層が重要。そして、その上は 6300 年大爆発した鬼界カルデラの火山灰で覆われる。

縄文の森展示館の脇から広がる広大な緑の台地 今では埋め戻された上野原遺跡が保存されているその一角に竪穴式住居群が復元されている。

私が見慣れた縄文の竪穴式住居とは少し異なる丸型に、南からやってきた人たちの住居の構造も違うのかと

ビックリするが、学芸員の方の説明では、
 「残された住居跡の痕跡のイメージ」で、特に根拠はなく建物の形は良くわからないと。。。でも 黒潮の民には こんな住居が似合うのかも知れない



9500 年前の地層

7500 年前の地層



発掘時の 9500 年前の集落跡 集落の中に 2 条の道

7500 年前の層から出土した数々の遺物

日本最古の定住集落跡が出土した 9500 年前の層では、集落を貫く二条の道跡と 52 軒の竪穴住居跡群や調理施設とされる集積遺構と連穴土坑などが出土し、九州南部地域の定住化初期の様相をよく示しているとされる。

また、7500 年前の地層からは埋納された一対の土器や土偶、耳飾 異形石器など多彩な遺物が出土し、この地が神聖な場所だったと思われる、そこを取り囲むように日常使われる多数の土器片や石器が出土した。

縄文の森展示館はよく統一されたコンセプトで この南の海からやって来た縄文人を素晴らしい展示で概説していました。見たかった東日本の縄文土器とは異なる形式の貝殻文様の土器の数々。そして 丸太をくり貫いて黒潮にのってやってきたという磨製の石蚤型石斧。



どちらも非常にすっきりしていて 現代に通ずるビックリするほどの美しさでした。

しかし、館内は完全に写真撮影 シャットアウト。その厳格さにビックリ。開放的な縄文人 同じ縄文の青森三内丸山遺跡のオープンな展示知っているだけにビックリ。

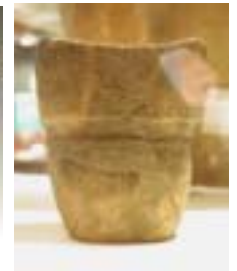
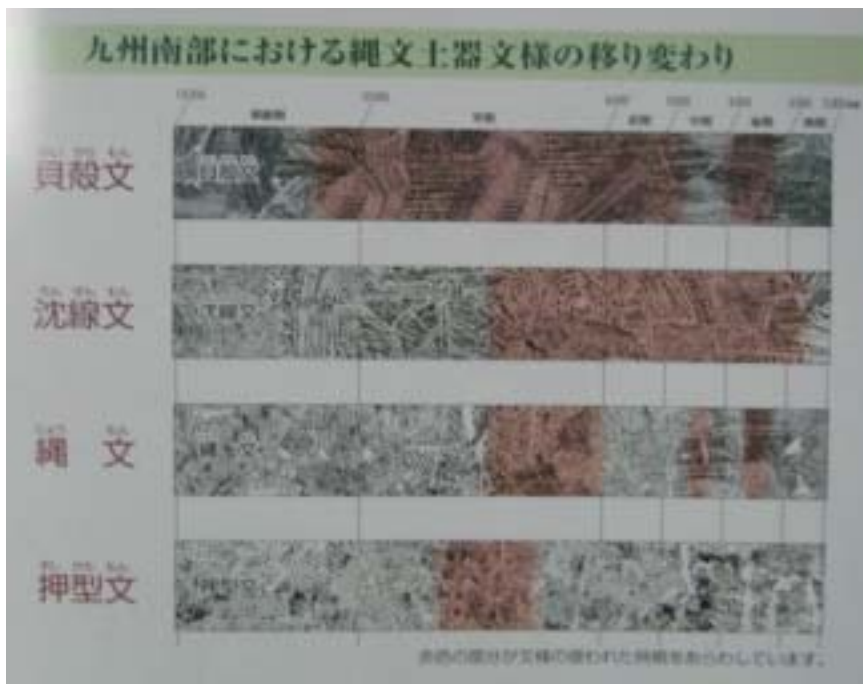
(えらい人がきた時かどうか しりませんが、一年に数日 写真をとっていい日があるとか。。。。)

本当に 例外のある日本的 もっとオープンにすればと思うのですが。。。。

東日本の縄文人の作った縄文土器 火焰式土器・亀ヶ岡土器はじめ、その形 デザイン 文様も素晴らしいのですが、この上野原の縄文人の作った土器にも見とれてしまいました。図説からコピーして紹介します。



上野原遺跡 縄文早期の貝殻文様土器 上野原縄文の森 常設展示図録より



貝文土器の文様の数々

上野原縄文の森常設展示図録ほかより



南九州出土の土器片 貝殻文様

なんといっても 平底の方形の土器にビックリ 四角い底面からすつと立ち上がって薄い肉厚のシンプルな形状で表面には貝殻文様
東日本の縄文土器には見られない現代にも通用する洗練さ 9500 年前にこんなすつきりしたデザインで。。。。

平底でしかも方形。。。 どうして作ったのか。。。

「日本人はるかな旅」の本には「このデザインこそが、南の海からやってきた証拠」と。。。。。

もうちょっとゆつくり見たい」と思いながらもツアーの悲しさ。あっという間に時間が過ぎて、上野原縄文の森を後にしました。

「日本人 はるかな旅」 9500 年前の日本人のルーツに触れ、そこには東日本の縄文人と同様 素晴らしい縄文文化を咲かしていました。

貝文土器の洗練された美しさ そして磨製石器のつややかな色 やつぱり行ってみないと出会えぬ美しさに満足でした。

2004.10.7.上野原の台地を下りながら

M. Nakanish

参考 本文きっちり、公証できていませんが、
書くにあたり下記資料参考しました

1. 上野原縄文の森 常設展示図録
2. NHK 出版「日本人はるかな旅」
巨大噴火に消えた黒潮の民
3. 山内丸山縄文の会 「縄文ファイル」



上野原遺跡 復元竪穴住居群

九州 縄文・古代遺跡を訪ねる旅

3. 古事記・日本書紀神話 の 宮崎県西都原 古墳群 2004.10.7.



10.7. 鹿児島県の上野原縄文遺跡見学の余韻もそこそこに、JR 国分から特急で南宮崎へ
宮崎市から北約 30 km 九州脊梁山脈の山裾の丘陵地に広がる西都市の西都原古墳群へ
宮崎県 日向国は天孫降臨神話や海幸彦・山幸彦神話などの神話の国。

「ひむか神話街道」が設定され、これら神話伝承地を観光ルートとして結ぶ。県北の高千穂町から 西都・宮崎市を通過して 南の霧島 高千穂峰の麓の高原町を結び、沿線には、天孫降臨神話や海幸彦・山幸彦神話などの古事記、日本書紀にまつわる神話をはじめ、平家落人や百済王などの伝説や神楽などの伝統芸能が数

多く残されている。

このほぼ中間にある西都市には「西都原」とよばれる高台に古墳時代の膨大な古墳群があり、

「高千穂の峯に天降ったニギニギノミコトが この西都原にやってきて、コノヤサクヤヒメと
会い、三人の子供をもうける。 その子供の一人山幸彦と海神の娘トヨタマヒメの孫が神武
天皇で、この地より東征して大和に入る」

日本誕生の記紀神話である。

西都原に広がる膨大な古墳群の中心に位置する 5 世紀前半の九州最大規模の前方後円墳 男狭穂塚（おさほ塚） 女狭穂塚（めさほ塚）（長 174m）はこの記紀神話の主ニギニギノミコトとその妃のコノハナサクヤ姫の陵墓と伝えられている。

天皇家・日本誕生の大和神話発祥の地である。

南宮崎から路線バスに乗り継ぐ予定が、列車の遅れで乗り継げず、タクシーに分乗して西都原へ向かう。

宮崎市の市街地を通り抜け、正面に続く山々目指して 約 30 分ほどで、西都市に入り、街を通り抜けたところの丘陵地を登ってゆく。

丘の上にあがるとそこは緑の広大な台地で、丘陵地の向こうに形の良い高い峰々がそびえて、広々とした緑地のあちこちにお碗状の古墳が点在しているのが見える。

後背の山々はあとで調べてわかったのですが、花の名山として知られる「尾鈴山」。

この山をバックに西都原古墳群が広がる広大な西都原風土記の丘である。

その中心に在って 大きな林を形成しているのが九州最大の前方後円墳男狭穂塚・女狭穂塚である。

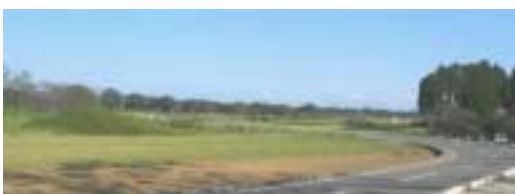
この前で みんなと待ち合わせ、前もって西都原で頼んでいたタクシーに乗り換え、古墳群ならびにこの西都原の端にある西都原考古博物館を見学。

緑に包まれ、延々と台地がつづく素晴らしい場所である

3. 古事記・日本書紀神話 の 宮崎県西都原 古墳群

1. 西都原古墳群 概要
2. ニギニギノミコトとコノハナサクヤヒメの記紀神話
3. 九州最大の前方後円墳 男狭穂塚・女狭穂塚
4. 鬼の窟と鬼伝説
5. 酒元ノ上横穴墓群

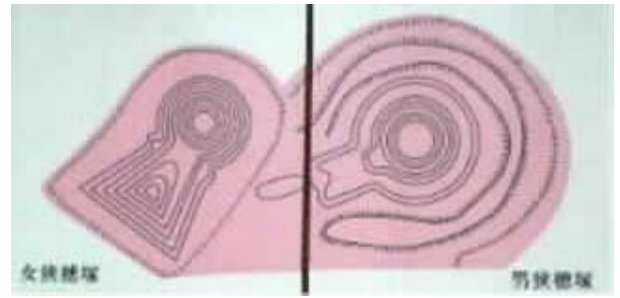
1. 西都原古墳群 概要



西都原古墳群は、西都市街の西、通称「西都原」と呼ばれている標高 60m の台地を中心に東西 2.6Km、南北 4.2Km の広い範囲に分布。

現在までの発掘調査より 4 世紀から 7 世紀前半に築造されたと推定される前方後円墳 31 基、円墳 279 基、方墳 1 基、地下式横穴墓、横穴墓など、311 基のさまざまな古墳で構成された全国有数の大古墳群。その古墳の大部分はいまだに発掘をされておらず謎を残している。 わが国第一号の風土記の丘、

（西都原風土記の丘史跡公園）として整備され、古墳と自然が調和した歴史的景観が維持保存されている。



南九州連合勢力の首長の墓 男狭穂塚・女狭穂塚（長174m）

西都原の古墳群では古墳時代始まりの3世紀後半から4世紀後半まで7つの首長勢力が墓域を異にして首長の前方後円墳を築く。

4世紀末これらの系統が統一され、南九州の連合勢力の首長の墓 男狭穂塚が築かれさらに九州最大規模の女狭穂塚（長174m）が築かれる。この墓は当時の倭王権の墓に匹敵する巨大な墓であり、この地南九州には倭王権と密接な関係を持った大きな王国があったと考えられている。

その後 6世紀前半の50m級の中型前方後円墳が作られるまで前方後円墳は作られない。

そして、6世紀後半には最後の首長（豪族）の墓である直径36mの円分鬼の窟（おにのいわや）古墳が築造され7世紀前半の酒元ノ上横穴墓群で墓の築造は終了する。

一方 5世紀後半からは数多くの地下式横穴墓や小型の円墳が集積して作られ、西都原は群集墓の様相を強める。この中には南九州独自の墓である地下式横穴墓の土盛りと見られるものもある。



鬼の窟古墳



170号古墳



唯一の方墳 171号古墳



100号古墳周辺

この5世紀は倭王権が次々と勢力を伸ばし、各地の王国を統合してゆく過程にあり、この南九州の王国もこの過程に飲み込まれ、上記した西都原の古墳群の変遷もその現れであり、記紀神話の物語もこれを色濃く反映する。

この南九州・日向の地は隼人族の地。早くから、倭王権に対抗する巨大な勢力があつた。その勢力が 連合して倭王権と連携しつつも、次第に倭王権の中に組み入れられてゆくことになる。この隼人族など南九州の王国を示す遺物や具体的な話はあまりにも少なく良くわかっていない。南九州に残る地下式横穴墓やわずかに残る墓に埋葬された蛇行剣の存在・隼人盾にそれを見ることができる。西都市考古博物館にこれらの展示がある。



西都原考古博物館とそこで見た隼人盾と蛇行剣 2004.10.7.

この「蛇行剣」を見るのは初めてで、出土例の半数以上が5世紀南九州の横穴墓嘉良の出土であり、祭礼用と見られているが、何ゆえの蛇行剣であろうか。。。 また、南九州で集中出土から察して、なんらかの形で鉄の技術と絡む集団の遺物であろうか。。。 謎である。

2. ニギニギノミコトとコノハナサクヤヒメの記紀神話



高千穂に天降ったニギニギノミコトは、安住の地を求めて、西都に辿り着いた。ある日、ニギニギノミコトは小川に水を汲みに来た美しい乙女と出会い、ひと目で心をつかまえてしまう。ニギニギノミコトとコノハナサクヤヒメ、逢初川（あいそめがわ）が結んだ恋だった。ニギニギノミコトはコノハナサクヤヒメの父、オオヤマツミノカミに妻にしたいと申し込む。やがてふたりはめでたく結婚。

しかし、幸せは一夜の契り。夜が明けるとニギニギノミコトは反乱部族の討伐に旅立っていった。数カ月が過ぎ、無事帰還したニギニギノミコトは、妻のもとに。喜びに顔を輝かせ、懐妊（かいにん）を告げるコノハナサクヤヒメ。しかし、一夜限りの逢瀬（おうせ）と長い不在の後の思いがけない知らせに、疑惑と嫉妬で胸を苛まれるニギニギノミコトは、どうしても妻の貞節を疑わずにはいられなかった。悲しみと怒りを抱えて産屋（うぶや）に入ったコノハナサクヤヒメは、出入り口を塞いで火を放つ。

「もしも生まれてくる子が天つ神ニギニギノミコトの子でなければ、私も子どもも焼け死ぬでしょう」自分と子どもの命をかけた潔白の証だった。燃え盛る炎の中で、ホアカリノミコト（海幸彦）、ホスセリノミコト、ヒコホホデミノミコト（山幸彦）と呼

ばれる三人の皇子が無事に誕生した。

山幸彦と綿津美（わたつみ）の神（海神）の娘、トヨタマヒメの孫がカムヤマトイワレヒコノミコト（神武天皇）と伝えられている。 また 海幸彦は隼人族の祖と伝えられている。



九州最大の前方後円墳 男狭穂塚・女狭穂塚



男狭穂塚・女狭穂塚の両塚は、皇室の祖先神にあたるということで陵墓参考地として宮内庁の直轄地となり、樹木に覆われた周囲は柵で囲まれ、普段は中へ入る事は出来ない。

築造は女狭穂が古く5世紀初頭、男狭穂が5世紀前半でも中葉という。したがって 神話とは時代が合わない。4世紀末これらの系統が統一され、南九州の連合勢力の首長の墓として築かれたと考えられている。この墓は当時の倭王権の墓に匹敵する巨大な墓であり、この地南九州には倭王権と密接な関係を持った大きな王国があったと考えられている。

4. 鬼の窟と鬼伝説



鬼の窟（おにのいわや）古墳とその北西都原を見下ろす尾鈴山

6世紀後半の直径36mの円墳で、この南九州日向の地を統括する最後の首長（豪族）の墓といわれ、このはなさくや姫を嫁にと願う悪鬼が、父の山の神、オオヤマツミから一夜で岩屋をつくる様に言われ、一夜で完成させたところという伝説がある。

昔西都原の台地の下に多くの人たちが住み、その一体に住む鬼が村人を困らせていました。

コノハナサクヤヒメを嫁にと願う鬼は山の神、オオヤマツミの指示どおり一夜にして岩屋を造り遂げる。

安心した鬼はうつらうつら・・・

夜が明けて鬼がおきて見るとちゃんと完成したはずの岩屋の石が一枚抜けている。

これは 鬼が寝ている間にオオヤマツミが石を一枚抜き取った跡

オオヤマツミが 岩屋から抜き取って投げたこの石は 西都市の石貫神社参道入口に据えられている。

鬼の窟古墳の入口から玄室に至る道の天井に大きな隙間があり、

また、鬼の窟の石を貫いて投げたということで石貫の地名が生まれたという。



鬼の窟古墳周辺からみた尾鈴山周辺
九州脊梁山脈 2004.11.5.

西都原の北には尾鈴の連峰が連なり、台地の北の縁を尾鈴から発した一ツ川が流れ降る。

この尾鈴山は花と滝の名峯ですが、この尾鈴山から日向の海岸にはに沿って尾鈴山酸性岩類と呼ばれる花崗斑岩質・流紋岩質・石英斑岩質の火成岩岩帯。「おすず」の言葉にも古代鉄の響きあり。

そして 鬼伝説 蛇行剣の存在。

非常にこじつけ的ではあるが、この記紀伝説の地にも鉄をめぐるドラマがあったのでは。。。と

5. 酒元ノ上横穴墓群



鬼の窟古墳の南側遠くに上屋がかかった古墳の様でもある丘が見える。これが、7世紀前半に作られた酒元ノ上横穴墓群。

覆い被された建屋の中には発掘された状態で横穴墓がいくつか見学できるようになっていた。



宮崎県西都原古墳群 2004.10.7.



酒元ノ上横穴墓群 2004.10.7.

この酒元ノ上横穴墓群に葬られた人々もまた隼人族の末裔だろうか。。。。

まだ 「蛇行剣」と「隼人」にこだわりながら タクシーの中から 回れなかった古墳群を眺めながら上野原台地を後にしました。

素晴らしい快晴の空 尾鈴山や九州脊梁山脈の連山を背景に広大な緑の台地に広がる上野原

もっと神話のゴテゴテしたところと考えていましたが、素晴らしい緑の中の日本誕生に何らかの役割を演じた古墳群。ここでも まったく知らなかった「蛇行剣」を見て、鬼の伝説にも出会えました。

まだ 「蛇行剣」にこだわりながら、夕暮れの台地を下りて西都市のバスターミナルへ



二日間の九州の縄文・古代遺跡を訪ねる旅。駆け足の強行軍でしたが、晴天の中 まさに 緑の大地を探索。Country Walk を堪能しました。

熊本では、素晴らしい装飾古墳を見学して そして、思いもよらなかった鉄の話との出会い。

「装飾古墳の人たちが、日本の古代の鉄の技術伝来 そして日本誕生に深くかかわったのではないか。。。」という私のイメージを益々深くした菊池 装飾古墳群でした。

すぐにでも もう一つの装飾古墳群の集積地 北九州遠賀川流域 日本で一番素晴らしい装飾古墳「王塚装飾古墳」を訪ねたい気持ちに駆られています。

また、鹿児島 上野原縄文遺跡。南北の桜島と霧島連峰の間に広がる素晴らしい緑の台地の遺跡。祖先が海を越えて黒潮に乗ってやってきた日本の大地。

東日本の縄文土器とは異なる素晴らしい土器に出会えて本当に感激でした。

そして、宮崎 西都原 記紀伝説に彩られた緑の大地。ここでも予想もしなかった古代鉄との出会いでした。

快晴にめぐまれた2日 九州の自然の緑の中で垣間見た遺跡群と全く知らなかった新しい発見。

風来坊にのみ許された Country Walk の楽しみでしょうか。。。。

あまり 出かける機会がなかった九州 そして 九州脊梁の山々にも 是非歩いてみたい。

南北に伸びる九州脊梁山脈を取り囲んで営まれた古代の九州 日本誕生と古代鉄がここでどんな役割を演じたのか。。。。

一人 イメージを膨らませながら 楽しんでいます。



2004.10.7. 宮崎の夕暮れ 大淀川を渡るバスの中で

Mutsu Nakanishi

九州の縄文・古代遺跡を訪ねて 2004.10.6.& 7

【完】

1. 熊本県 菊池 装飾古墳群 チブサン遺跡
2. 鹿児島県 上野原縄文遺跡
3. 宮崎県 西都古墳群



熊本県菊池 チブサン古墳



鹿児島県国分上野原縄文遺跡



宮崎県西都 西都原古墳群

2004.11.5. by M. Nakanishi